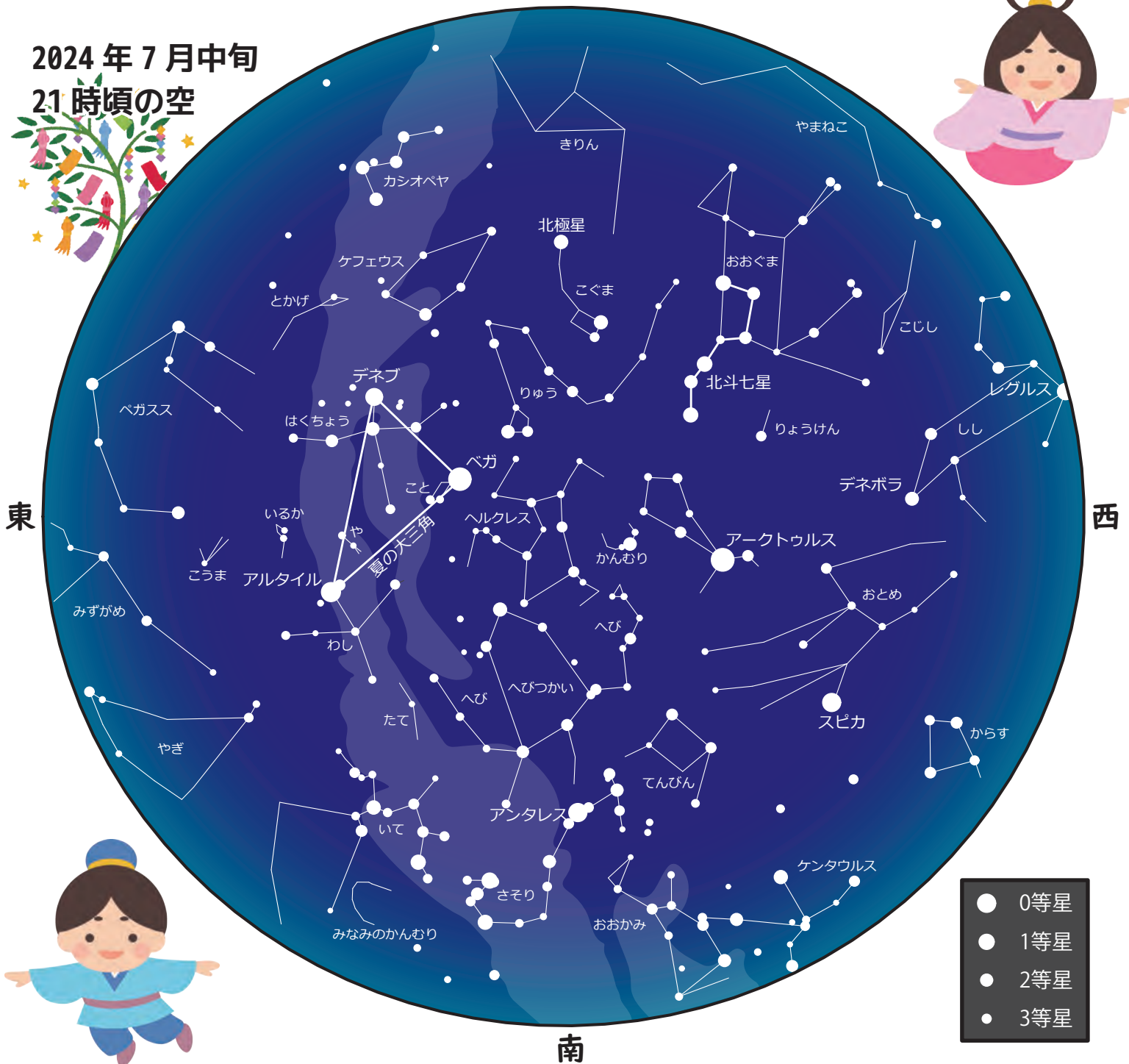


阿南市科学センター 7月の星空案内

北

2024年7月中旬
21時頃の空



7月にまず見つけたいのは七夕の星々です。天の川の兩岸には、ベガ(約0.0等)とアルタイル(約0.2等)が輝いています。これが織姫星と彦星です。七夕の物語では、織姫と彦星が天の川を渡って会えるように橋を架けるカササギという鳥がいて、これがデネブ(約1.2等)にあたります。デネブがあるはくちょう座は、天の川に架かる橋のように大きな翼を広げている姿が特徴的な星座です。織姫星(ベガ)と彦星(アルタイル)、そして二人をつなぐデネブを結ぶと夏の大三角が現れます。天の川を南に下っていくと、赤い星アンタレス(約0.9等)を目印に、特徴的なS字型の星座、さそり座を見つけることができます。このさそりは神話でオリオンを倒したとされており、オリオンはこのさそりをとても恐れました。それは夜空にも反映されていて、さそり座が地平線から昇ってくるとオリオン座が沈み、反対にさそり座が沈むとオリオン座が昇ってくるというおもしろい星座の位置関係になっています。

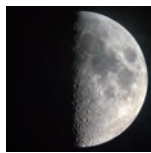
天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催!】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

7月の月の満ち欠けと惑星について



新月
6日



上弦
14日



満月
21日



下弦
28日

7月の天体観望会で月が見える日時は？



7/13(土) 全ての回で観察可能



7/20(土) 21時で観察可能

※両日とも19時の回は空が明るいので、20時・21時の回がおすすめ

水星：22日に東方最大離角をむかえ、夕方西のごく低空に見える。【約0.5等】

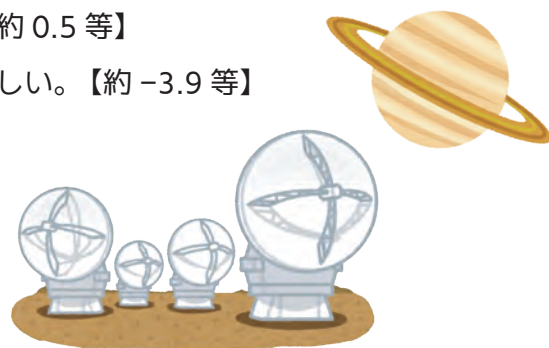
金星：日没後、西のごく低空に位置するが、まだ太陽に近く観測は難しい。【約-3.9等】

火星：後半夜に東の空から昇り、日の出前まで見える。【約0.9等】

木星：未明に東の空から昇り、日の出前まで見える。【約-2.0等】

土星：前半夜に東の空から昇り、日の出前まで見える。【約0.9等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ下旬22日の明るさ。



今月の天文現象

【早朝に起こる土星食】

7月25日は土星食と呼ばれる、月(月齢19.0)が土星(0.9等)を隠す現象が約10年ぶりに全国で観測できます。阿南市では、図1のように観測することができます。土星が月縁にかかってから完全に隠れるまで、阿南市では約40秒かかります。しかし時刻は早朝になるため、空は明るく土星食を肉眼はおろか、小さい望遠鏡でも観測が難しいかもしれません。

ところが、今年はまだ一度観測するチャンスがあります。12月8日に起きる土星食は、日も沈んだ夕方、今回よりも好条件で観測することができます。今回の観測が厳しかったという方はまた12月にチャレンジしてみてくださいね。

土星食のイメージ(阿南市)

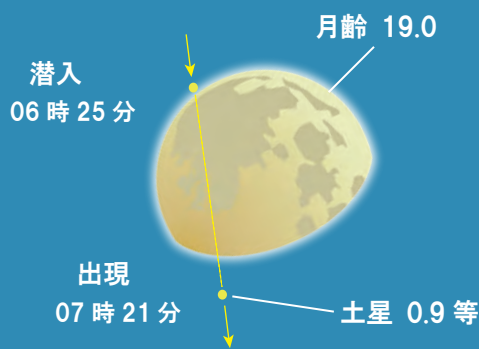


図1 7月25日の土星食のイメージ(阿南市の場合)

※時刻はステラナビゲーターをもとに作成

イチオシ天体写真

【NGC6334 出目金星雲】

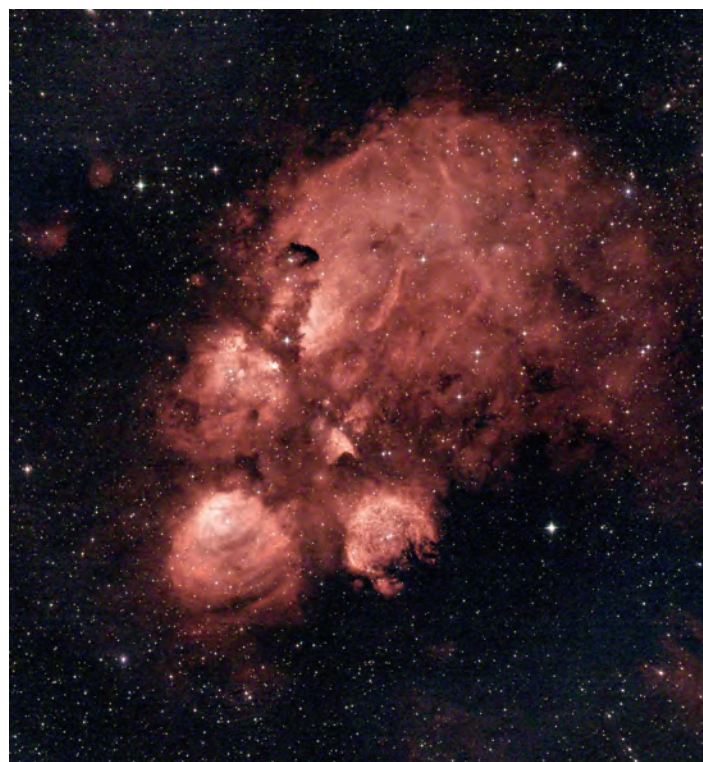


図2 さそり座で輝く NGC6334

2024年6月4日 阿南市内より撮影 (by K. Imamura)

NGC6334はさそり座の尻尾のあたりで輝く散光星雲です。国内では金魚を連想させる見た目から「出目金星雲」という愛称で親しまれています。海外ではネコの肉球のようにも見えるので「猫の手星雲」とも呼ぶそうです。天文学では大質量星の誕生の現場として知られ、様々な波長帯の電磁波で観測・研究が行われています。